

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 「ひろがれ にこにこ」

2 単元の目標

身近な人々と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを楽しんだり工夫したりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの生活をよりよくするようにする。

3 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ・家庭生活において、自分でできることや家庭での自分の役割があることに気づき、家庭の温かさに気付いている。 | ・自分でできることや挑戦したいことを選んだり、決めたりして、計画を実行するとともに、家で挑戦したいことを絵や文章で記録している。 | ・家族がしていることや、家族にしてもらっていることに興味を持ち、家族の笑顔が増えるように自分にできることをしようとしている。 |

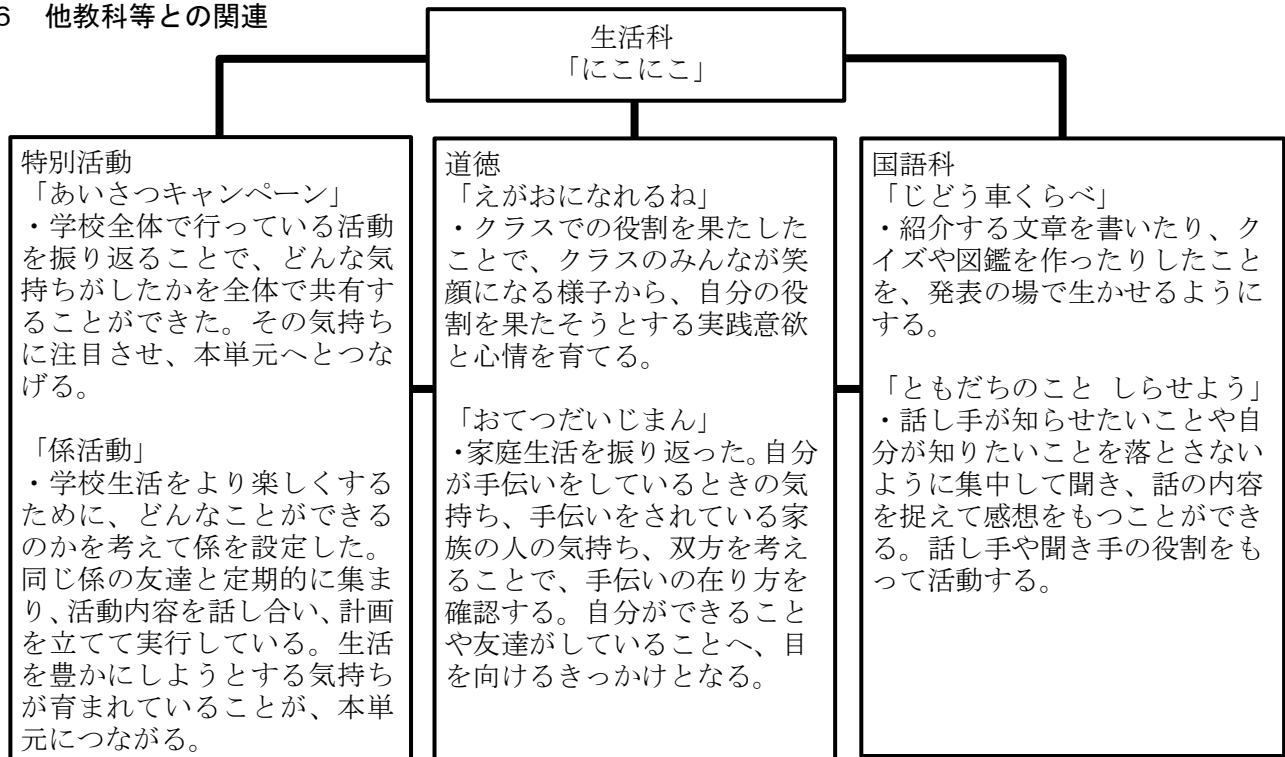
4 単元について

本単元は、児童が自分自身や家族、家庭生活に目を向け、それについて考えていく活動である。本校で取り組んでいるあひさつキャンペーンを通して、あひさつのよさを感じることから始め、自分や友達、家族が「にこにこ」するときを考えたり聞いたりして、家庭生活を楽しくするために自分でできることを考え実行していく。それらを通して、自らよりよいことを実行していったり、周りの人と関わることを楽しんだりして、友達や家族のよさに気付いたりすることをねらいとしている。

5 SDGsとの関連

[関連目標⑰] 一人一人の気づきや家庭における状況は違うが、児童が様々な気持ちや活動を表現することによって、家族がにこにこする時を知り、家庭生活を楽しくするために自分でできることが確かになり、交流することで共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、様々な気づきが関連付けられたりする。互いの共通点や相違点、それぞれの関係や関連を確認することで、気づきが充実することを実感させたい。ESD アンケートの結果より、まずは自分の思いをもつところから、学習を進めていきたい。

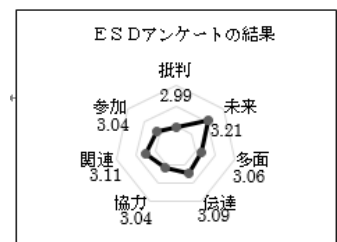
6 他教科等との関連



7 児童の実態

二学期の学習「あきとあそぼう」では、二年生と地域にある平和島公園に行った。どんぐりが多く落ちている場所を見つけ、どんぐりを拾ったり、自然を用いた遊びをしたりすることで、二年生との交流を楽しみ、自然物での興味・関心を深めることができた。「あそびばへでかけよう」では、家や学校以外の新しい遊び場である児童館について知った。実際に見学に行き、新しい遊びを知ると夢中になったり友達と遊んだりすることは楽しいと気付くことができた。それぞれの単元での文にまとめて発表する活動において、自分の考えをもち、友達に自信をもって伝えることができたと考える。

ESDアンケートの中で、**②未来**（生活との関連）、**③多面**（様々な視点の考え）**④伝達**（未来を変える可能性）**⑥関連**（地域の一員）の数値が高い。他教科で実践している「ペア活動」で話し合いの練習を行い、自分と似た考えや違う考えを取り入れる活動を取り入れたたり、道徳において、今までの経験を振り返り、自分だったらどうするかという「自分ごと化」をする時間を取り入れたたりしたことなどが、4項目の数値につながっていると考える。一方で、**①批判**「自分の考えと友達の考えの違うところを見つけることができる。」や、**⑤協力**「協力することで友達の良さを見つけようとしている。」**⑦参加**「疑問をもつことがよくある。」の項目については、数値が低く出ている。このことから、本時までの学習として、笑顔になるのはどういう時なのか、今までの学習活動や行事、学校での取り組みである「あいさつキャンペーン」を振り返ることで、笑顔になるのはどういう時か、笑顔になるにはどうしたらよいかについてワールドカフェ形式を通して児童は考えてきた。その経験を生かして本時では、笑顔にさせる方法を自分ごと化して捉え、意欲的に計画を立てられるようにペア活動を取り入れ、家族にインタビューした「にこにこアンケート」を基に自分ができる家族の誰かをにこにこさせる方法を計画するという学習活動を行う。また、国語「しらせたいな、見せたいな」や生活「あそびばへでかけよう。」では、相手に伝わりやすい文の書き方や発表をする力を身に付けることができるように取り組んでいく。



8 研究に迫るための手だて

(1) 児童や授業者が「学びを評価」するための評価方法の手だて

児童の学びを評価するために、ワークシート等を活用していく。児童の気付きや考えの変化が分かるように付箋の色を変え、児童や授業者が振り返ることができるようにする。

(2) 学びを深める学習活動の手だて

単元を通して、児童の実態やねらいに合わせた思考ツールを活用していく。また、それらを用いて交流活動をすることで、「にこにこ」という気持ちのイメージを膨らませたり、連想される言葉を増やしたりしていく。活動を繰り返すことで、自分の気付きを広めたり深めたりしていくことができるようにする。

9 単元の指導計画と評価計画

| 時 | 目標 | 主な学習内容 | 評価 |
|---------------|--|---|--|
| 1 | ・自分のにこにこする時を考 えることができる。 | ・付箋に「自分がうれしい時・楽しい 時（にこにこするとき）」を付箋に 書き溜める。 | ・自分がにこにこする時を考 えている。（付箋） |
| 2 | ・友達に「にこにこ」を伝え たり、聞いたりし、自分とは同 じ、または違う考えに気付く ことができる。 | ・「にこにこやさん」になって、自分 のにこにこする時を伝えるペア学 習を行う。 | ・友達の「にこにこ」に気付い ている。 |
| 3 | ・改めて、自分のにこにこする 時を考えることができる。 | ・付箋に「自分がうれしい時・楽しい 時（にこにこするとき）」を付箋に 書き溜める。 | ・自分がにこにこする時を考 えている。（付箋） |
| 4 | ・「かぞくのにこにこ」をイン タビューする計画を立てる。 （にこにこアンケート） | ・どんなことを聞くか、誰に聞くかな どインタビューの計画を立てる。ま た、予想を立てる。 | ・家族がどんな時ににこにこす るか予想したことを基に計画 を立てている。（ワークシート） |
| 5 本 時 | 《みんなのにこにこ大作戦》 ・自分が家族をにこにこさせ ることができることに気付 き、家族のために自分がで きることを考える。 | ・にこにこアンケートを振り返り、自 分家族をにこにこさせること ができることに気付く。 ・自分がにこにこさせる相手を決め、 自分ができると考える。 | ・自分が人をにこにこさせる存 在であることに気付く。 ・家族がにこにこできるように、 自分にできると考えている。 |
| 6 | 《みんなのにこにこ大作戦》 ・にこにこ大作戦を振り返り、 さらにしてみたいことや継 続することを考える。 | ・家族がにこにこする作戦を行っ てみて、振り返る。 | ・にこにこ大作戦を振り返り、さ らに家族がにこにこすること を考えている。 |
| 7 ～ 9 | 《みんなのにこにこ大作戦》 ・家族の笑顔が増やせるよう に挑戦したりする意欲をも つことができるようにする。 | ・作戦を行い、振り返る。 ・自分の一日を振り返り、気付いたこ とを友達と話し合う。 ・繰り返し活動することで、計画を見 直す。 | ・家族のために、自分にでき ることを考えている。 |
| 10 ～ 12 | 《にこにこひろがれ》 ・家族の笑顔を増やしたいと いう意欲をもち、自分にでき ることや挑戦したいことを 考えて、実行することがで きるようにする。 | ・自分でできることや挑戦したいこ とを選んだり、決めたりして、計画 を実行すると共に、家で挑戦したこ とを絵や文章でまとめている。 | ・家庭生活において、自分ででき ることや家庭での自分の役割 に気付く。 |
| 13 ～ 15 | ・家で挑戦したことを友達と 紹介しあう中で、家庭での自 分の役割を増やしたり、これ からも継続しようとしたり するとともに、健康に気を付 けて生活することができる ようにする。 | ・家族の笑顔が広がったと思う行 動を選ぶ。 ・にこにこ大作戦をして、良かったこ とや気付いたことを友達と紹介し あう。 ・これからも家庭で続けたいことを 考える。 | ・自分が家族のために何かをし たりすることで、家族が喜んで くれることに気付く、家庭生 活の中で役割が増えた自分の成 長や友達の良さに気付いてい る。 |

10 本時 (5/15) 時間

(1) 本時の目標

自分がにこにこさせられることを知り、自分ができようことを考えようとしている。

(2) 本時の展開

| 時間 | ○主な学習内容 C: 予想される児童の反応 | ◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準 (評価方法) |
|---|--|--|
| 導入 5分 | ○にこにこアンケートの振り返りをする。 C: たのしかった。 C: もっときいてみたい。 C: もっとにこにこをふやしたい。 | ◆「なにを」、「どうして」など、児童の考えを掘り下げ、意見を全体で共有できるように教師が発問を行う。 |
| 展開Ⅰ 15分 | ○相手がにこにこすると、どう思うかを考える。 C: うれしい。 C: 自分もにこにこする。 C: たくさんの人がにこにこになる。 ○本時のめあての確認をする。 | ◆相手をにこにこさせると、自分にもにこにこが返ってくることに図も用いて気付かせる。また、そのことが繰り返されていくことにも触れる。 |
| <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> かぞくを にこにこさせるために じぶんができることを かんがえよう </div> | | |
| 展開Ⅱ 20分 | ○自分がにこにこさせる相手を決める。 C: かぞくぜんいん C: かぞくのおかあさん ○相手に向けて、自分ができようことを考える。 C: そうじをする。 C: ごはんを残さず食べる。 ○ワークシートに決めた相手やできようことを書く。 C: 家族のおかあさん。ごはんを残さず食べる。 C: 家族全員。部屋の掃除をする。 C: 家族の妹。一緒にあそぶ。 ○ワークシートの内容をペアで確認する。 | ◆手立てとして、1週間前に実施して回収しているにこにこアンケートの内容を紹介する。 ◇家族をにこにこさせるために自分ができようことを考えている。(ワークシート、発言) ◆自分の考えに自信をもったり、新たな考えが生まれたりするような声をかける。まだ見つからない場合はペアで相談するよう声かけをする。 ◆自分の考えと共感したり、新しく知ったりするために、友達の内容を聞くように促す。 |
| まとめ 5分 | ○本時の学習について振り返る。 C: 早く作戦をやってみたい。 C: お父さんには、休みの日しかできないな。 | ◆週末から来週までに作戦を行うよう促す。 |